第 14 期（2018 年 7 月 1 日～2019 年 6 月 30 日）事業報告

第 14 期の事業報告は、以下のとおりである。

※「担当」は、全てに関わった奥野以外の、理事/監事/ボランティアを記載した（敬称略）。

(1) ガラパゴスに関連する環境教育及び普及啓発に係る事業

① 「小笠原とガラパゴス」交流事業（8 月）。小笠原から中高生 5 名と小笠原自然文化研究所代表理事堀越さんらが、ガラパゴスを訪問。トマスデベルランガ高校（私立の英語教育学校）とガラパゴス高校（国立）で交流。企画、CDF との調整、同行（赤間）、報告会協力など JAGA で行う。担当：波形、赤間、

② 「ガラパゴス写真コンテスト 2018」開催（9 月）。応募作品数約 50 点。ガラパゴスの高校生（15 才、16 才）も応募。選考は、総会特別企画として、参加者の投票にて最優秀賞 1 点、優秀賞 12 点を決定。優秀賞 6 点に輝いたガラパゴスの高校生が所属する写真クラブに 100 ドルを寄附した。

③ 「ガラパゴスカレンダー2019」制作・頒布。写真コンテスト優秀賞作品を採用。11 月下旬に 500 部納品、発送開始。寄附の特典として頒布 207 部、会員配布 130 部、進呈約 100 部（ダーウィン研究所 25 部、写真クラブ 10 部など）。手元残約 50 部。日エク 100 周年＆小笠原返還 50 周年事業で、訪問先などで多くを進呈した。担当：里見、飯崎

④ 日本エクアドル外交関係樹立 100 周年関連。エクアドル大統領レセプション（9 月）、記念イベント＆パネル展示@国分寺カフェスロー（10 月）、記念事業実行委員会会議参加、報告書のとりまとめ、などに出席・担当した。

⑤ ペンギン基金セミナー講師（9 月）担当：飯崎

⑥ 藤原ナチュラルヒストリー振興財団講演会@科博にて、奥野講演（11 月）

⑦ 東京オリパラに向けた都の「世界ともだちプロジェクト」で世界の国を知る一環として、エクアドル大使館と一緒に、品川区城南小学校にてエクアドルとガラパゴスについて奥野講演。

⑧ JAGA ツアー企画（実施は 2019 年 8 月）。ビーチでの清掃活動を組み込む。担当：波形

⑨ 経団連自然保護協議会視察支援（実施は 2019 年 10 月）。担当：波形、赤間

⑩ 東京都とチャールズ・ダーウィン財団の連携支援。担当：清水、真板、波形、赤間、など

(2) ガラパゴスに関連する情報の収集および提供に係る事業

① 日本テレビ「所さんの目がテン！」およびニュース番組「ZIP!」の番組制作協力・情報提供など。放送は ZIP!が 7 月下旬の 1 週間枡太一アナウンサーが生中継。8 月には番組内で特集コーナー。「所さん…」は 9 月 26 日に収録に立ち会い台本を監修。10 月 7、14、21 日放送。担当：波形、飯崎、里見

② 日本テレビ「世界まる見え！テレビ特捜部」9 月中旬放送回、情報提供、写真貸与。

③ 上野動物園ゾウガメの遺伝子解析結果の論文発行。Current Herpetology 38(1)1-5, Feb. 2019

④ 国立民族学博物館：朝枝利男（日本人で初めてガラパゴスに行った人物）の持ち帰った写真や標本画を民族博物館が保有しており、その数百枚の資料に関する情報提供や判別作業を行った。同博物館の発行する会報誌への寄稿の依頼もあった。協力：伊藤秀三長崎大学名誉教授、新木

⑤ 「ガラパゴス植物ガイド」の編集。担当：伊藤秀三長崎大学名誉教授、里見、倉田、清水

⑥ 無農薬栽培・フェアトレード、かつ原産地証明のあるガラパゴスコーヒーについて、情報提供した。担当：高木

⑦ SNS による情報発信：Facebook、twitter によるガラパゴスに関する情報の発信。ガラパゴスに関わる機関からの発信をシェアしたり、独自記事を発行したりして、約 150 記事を発信した。担当：飯崎

⑧ メールニュース（2 回）、会報（11 月、5 月）の発行。担当：里見、飯崎

⑨ その他、メディアや個別の問い合わせ対応、随時。

(3) 生態系等の環境問題全般に関する情報の収集及び提供に係る事業

特になし。

(4)ガラパゴスにおける環境保全活動の実施及び支援に係る事業

1）**イサベラ島環境教育支援**

イサベラ島プエルトビジャミル市のハシント・ゴルディージョ学校が行っている、生徒に向けた環境教育に支援を行った。同校からは 2018 年 3 月に 1 名が小笠原との交流で日本を訪れていたため、8 月実施の小笠原からの学生訪問時に、寄附を直接届けた。サンタクルス島では環境教育や島民への啓発活動が進んでいるが、イサベラ島では

第 14 期（2018 年 7 月 1 日～2019 年 6 月 30 日）事業報告

遅れており、保全活動への子どもたちの参加を促す活動に役立てられるとのこと。

2）**ガラパゴス・ベルデ 2050 支援**

BESS フォレストクラブと共に支援している、ダーウィン研究所(CDF)の植生回復プロジェクト。サンクリストバル島とフロレアナ島において、植生再生事業を実施すると共に、学生や子どもたちに対する環境教育や人材育成のための活動を支援した。サンクリストバル島では、これまで閉鎖されていた CDF のサンクリストバルオフィスをリノベーションし、敷地内に高校生や国立公園局のキッズレンジャーらとネイティブ・ガーデン（在来種の庭）を作って苗を植え、メンテナンスも実施した。また専属の職員も雇用した。子どもたちがここに来て学べるよう、セミナーを開いたり、各植物についての説明看板を作り設置したりした。また国立公園局とも連携し、同局が持っている種苗施設を借り、ネイティブ植物の苗を栽培して、植生再生プロジェクトに活用した。

人口 150 人ほどのフロレアナ島では、島の唯一の学校であるアマソナス学校や旧ゴミ捨て場、鉱山、行政府や国立公園支所などの公共施設において、植樹した植物のモニタリング調査を継続して実施。サステナブル農業への取り組みについても、継続支援した。

（左から、植樹するキッズレンジャー、モニタリング中の高校生、普及啓発グッズの展示）

3）現地活動支援

ガラパゴスの子どもたちは保護区の外に住んでいるため、自分たちの住む島の自然をあまり知らないことから、希望する子どもたちにカメラを貸し出し、写真の撮り方を教え、ガラパゴスの自然を撮影させ、自分の住む島の魅力を発見し、守る心を育てる、という取り組みを実施する高校生写真クラブを支援した。この写真クラブに所属する 15、16 才の子どもたちが、カレンダーの写真を撮ってくれた。

4）ペンギン調査支援

年に３回行われているペンギン、コバネウ、アホウドリの生態調査。今年度もペンギン基金より寄附があり、現地活動を支援した。（ただし送金は８月に行ったため、会計には反映されていない）

(5)ガラパゴスに関連する国際協力に係る事業、および(6)調査研究の実施、支援、及び研究者の支援に係る事業

特になし

(7)ガラパゴスに関連する諸機関の運営又は活動に関する連絡、助言、援助に係る事業

東京都は、小笠原諸島などの島嶼地域の保全を見据え、来年度チャールズ・ダーウィン財団との連携を計画している。今期はこの連携に関する協議、また小笠原などの関係諸機関との話し合いや情報交換を行った。

(8)その他、本会の目的を達成する上で必要な事業

■日本エクアドル外交関係樹立 100 周年記念事業実行委員会の委員として、奥野が活動した。在京・在キトの大使館や外務省などの公的機関、エクアドル本土で活動する団体や個人、日本で活動するエクアドル関連の団体・企業・個人との繋がりが多くできたことから、ガラパゴスに関連する情報が多く入るようになっただけでなく、JAGA のガラパゴスの専門機関としての認知が進んだ。

■助成金：ガラパゴスと小笠原の若者交流事業を継続するため、助成金を探し、説明会などに行った。申請をして不採用になったものや、申請の段階で無理と判断したものが多く、なかなか実を結ばなかった。国際緑化推進センターの「緑の募金」は、サンクリストバル島でのガラパゴス・ベルデの活動支援で採択された（来期）。担当：里見

■その他ファンドレイジングのための活動。

【謝意】当期活動したボランティア：赤間亜希&アンドレス・ロセロ、高木一輝、飯崎晶子、および事務局長以外の理事・監事全員。（五十音順）